

## 平成 28 年度 第 6 回講演会 記録

日 時	平成 28 年 6 月 25 日 (土) 13:00~16:00
会 場	此花会館 梅香殿
講 師	「小さな世界学校」 代表 小関 哲 先生
演 題	離島の暮らしを世界に紹介する
備 考	参加者数 会員 167 名 非会員 17 名 計 180 名 記録 飯田正恒

氏がかって京都の大学で学んでいたとき、多くの若者と同じく自分はこれから何をすべきか、沢山の可能性があるようでいて、自分の将来が見出せず悩んだことがあった。現在、当時にはとても考えられなかった仕事、それは自分が生まれ育った平戸島で世界の若者に、学校では教えなくなってしまったことや、昔は自然の中で当たり前のように経験できた、とても大切なことを学んでもらう「小さな世界学校」を設立し運営している。会場の皆さんが年少のとき、誰でも当たり前のように学び経験してきたことが、私たちの世代には当たり前でないことが多くある。都会では失われた日本の昔からの素晴らしい文化や、大切なことを長崎の離島で体験し、感動してほしいとの思いから「スタディーツアー」を企画運営する事業を立ちあげた。

2007 年、アイゼンハワー元大統領創設の教育団体「ピープルトゥピープル」が 48 コースに 2 万 7 千人を派遣、360 人が「平戸・小値賀・長崎ルート」に参加したが、このプログラムが No.1 の評価を受け表彰をうけた。(2008 年も同様に受賞)

なぜ平戸島なのか？ 平戸島がこの活動を行なう上で最も適した土地であるからで、美しい自然や文化、心温かい人びとが多くいるからだ。

No. 1 の評価を得た要因は何か？ 平戸島に来た若者達が美しい自然だけでなく、ホームステイによって人びとの暮らしぶりを直に見て、そのぬくもりに触れたこと。平戸島には都会ではなくしてしまっただけに大切なものを思い起こさせてくれるすてきな人びとが多くいる。また、平戸の魅力を外国の若者に完璧に伝えることが出来る世界中から集まった感受性豊かな若いスタッフの力があつた。また県や民間からの支援があり、人が触れあい、心が通う仕掛けがうまく機能したことによる。このどれが欠けても世界一はあり得なかった。

ホストとして外国から多くの若者を迎え、お持てなしするおじいちゃん、おばあちゃんの精神的プレッシャーは相当大きかったのではないかと？ 外国の 10 代の若者の心を引き出せるかどうかは、平戸の自然の中でおじいちゃん、おばあちゃん達の力を借りれば可能だとの信念でやったことがよかった。彼らも楽しんで受け入れてくれた。若者と島の人々をつなぐスタッフの「心の通訳」によって、お互いが理解しあえる関係が結べたことが大きな成功要因と思う。

若者たちは、ホームステイで人と人の心の触れあいをし、長崎市を訪れて被爆体験講話を聞き、心から涙を流してくれた。若い人材を養成することで異文化に大きな橋を架けることができる。外国人と日本人、若者と年配者という区分はない。国際交流ではなくて、人と人の「交流」である。戦争を止めるには人と人が理解しあうこと。これ以上の安全保障はないと思う。

以上のように「小さな世界学校」への思いや小関哲学をたっぷりお話いただいた。また、9 月の平戸島での観察会を前提に、歴史や文化、見どころについての紹介もしていただいた。

9 月に平戸島を訪問するのは、若い学生ではなくシニアであるが、気持ちの上で若い人に負けることなく、平戸島の人々と心の交流をして来たいと思う。



小関 哲先生

以上

